

残業、月60時間以内へ

時間給制 収入下げない工夫も

中田商事

【三重】中田商事（中田純一社長、三重県伊賀市）は、本社で働きやすい職場認証（運転者職場環境良好度認証）を取得している。各種認証の申請を担当する、情報管理室の藤森純子室長は「データの整理や可視化など、やってきた取り組みの延長線上で難しくはなかった」と言い切る。

同認証は4月1日に取得。中小物流企業では珍し

い時間給制度を早くから導入している。全社員のデータを分析しつつ、労働時間と収入のバランスを取ることを心掛けてきた。2024年4月には残業時間の上限が960時間となるが、逆算して月60時間以内になるよう今から管理を進めている。

中田社長は「個人差が出ないようローテーション勤務も行っているが、時間給



なので、待機時間の削減などの効率化を進めると、労働時間は減るが収入も下がるとある。『みなし残業』で調整するなど工夫をしている」と明かす。

働きやすい職場認証の登録証書を掲げる藤森室長



女性活躍推進企業に与えられる厚生労働省の「えるぼし認定」も取得しているが、藤森氏は「働きやすい職場認証の取得でも、えるぼし認定が大いに役立つ」と強調。えるぼし認定では、①女性労働者比率②女性労働者の継続就業③労働時間④女性管理職比率⑤女性労働者のキャリアアップ⑥の各項目のうち、中田商事は3項目をクリアし二つ星に認定された。

保育士や調理師を直接雇用する、企業主導型保育園の運営で女性社員比率が上がり、子供を持つ女性ドライバーが働きやすい環境も整った。物流と保育園では事業内容が全く異なるものの、運営主体は同じ中田商事であるため、それぞれ並行して労働環境改善を進める必要がある。しかし、保育園運営で女性社員が増え

たことは、物流部門の改善にもつながっている。中田氏は「女性が働きやすい職場は、老若男女が働きやすい職場になる。法改正に伴う社内ルールのアップデートを粛々と行い、自然に認証を取れる形が理想的」と話し、藤森氏も「付け焼刃ではなく、日頃の取り組みをそのまま生かすことが大事。次は、働きやすい職場認証で二つ星、えるぼし認定で三つ星を狙っていく」と力を込める。

（星野誠）